慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	日土 土日 大辭典(日土協會編)
Sub Title	
Author	間崎, 万里(Masaki, Masato)
Publisher	三田史学会
Publication year	1937
Jtitle	史学 Vol.15, No.4 (1937. 2) ,p.189(701)- 190(702)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19370200-0190

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

物であり、此の良書を世に呈上せられた遺族及び同僚諸氏の好意に衷心より感謝しなければならぬ。（松本信廣）

歐羅巴地誌（有賀春雄著　刀江書院發行）

今日の歐羅巴が、單に歐羅巴人の歐羅巴ではなく、世界人の歐羅巴であることは何人も認める所である。今日、歐羅巴の一角に發生する事件は、直ちに全世界の利害に重大なる關係を及ぼすのである。されば、昨日の歐羅巴を省みて、以つて今日の歐羅巴を認識し、更に進んで明日の歐羅巴に思を致すことは吾人の當然なすべき任務であらう。

此の觀點に立つて、本書を公にせられた著者の努力に對して敬意を表するものである。元來歴史家である著者の本書中に於ける苦心は充分に認められる、それは從來の所謂地誌類に例を見ぬ程度に、多分に史的考察を行つて居ることである。孰れの大陸の國家にもせよ、その地域の自然的現象を第一に、しかも充分に、究めることは地誌作成上勿論必要ではあるが、その國の文化發展の段階を念頭に置かぬ時は、その地理學的全要素を完全に把握せるものとは言ひ難いのである。その點、歴史家としての著者の立場は有利である。純粋の自然地理學者の立場よりすれば、その地的敍述に對しては多少の不足を感ずる向もあらうが、著者もその序に言へる如く、本書が地理學を專攻するに非ざる一般學生或ひは一般讀書人を對象とすることを思へば、寧ろ史的考察にその特色ある點を尊重すべきであらう。

本書內容は、之を第一章總說、第二章西部ヨーロッパ、第三章中部ヨーロッパ北部の（一）、第四章中部ヨーロッパ北部の（二）、第五章中部ヨーロッパ南部、第六章東部ヨーロッパ、第七章地中海沿岸諸國の全七章に分ち、各章を見るに、必ずしも地理的區分に從ふことをせず、地形的、氣候的に區分されて居る。要するに歐羅巴を縱に三分して西部、中部、東部となし、之に地中海諸國を加へたのであるが、スウェーデン、ノールウェー、デンマーク等の國家に對しては、從來の「北部ヨーロッパ」なる區分を與へ且つ寫眞を挿入してはと思はれないでもない。

然し、一般の記述の懇切を極めたることゝ加ふるに多數の適切なる地圖を隨所に參照されたことは特に本書の價値を大ならしめる所以である。

之を要するに、著者がよく現在世界の情勢を會得せられて、その最も中心舞臺である歐羅巴の知識を比較的平易に示されたことに深く敬意を拂ふと共に、歐羅巴の今後の推移に關心を有つ世人一般に是非一讀を奬むる次第である。內容本文三〇〇頁。定價二圓二十錢。（犬塚久雄）

日土土日大辭典（日土協會編）

國際間の交渉は益々頻繁となりつゝある、且つアジヤの東西に強大なる獨立國をなす日土の兩國は、文化的交渉及び通商貿易に於ても次第に密接の度を加へつゝあるが、それだのに今日に至るまで未だ兩國語を以て直接意志を疏通するまでに至つてゐなかつ

た。之は一つには完全な辭書を有しないことにも起因するのであつた。しかるに、日土協會は甚だ之を遺憾とし辭典編纂の業に着手せられてゐたが、この程斯學に造詣深き內藤智秀博士鑑修のもとに三萬字を含む一千有餘頁の大辭典の刊行を見るに至つた。

曾てはアリヤン民族を以て他の文化的民族の最優越者であると說いて世界を驚嘆せしめたゴビノーの獨斷的人種論があつた。今は之に對抗してトルコ語こそは他の一切の國語の母語であつて、現在の一切の文化はトルコ文化の末流であると唱へるものが出來た。(Prager Presse, Prague, Czechoslovakia, Oct. 9. cited in Current History, Dec., 1936. P. 102)。その當否は別としてトルコが新興の勢を以て各方面に進出せんとしつゝある旺勃たる覇氣は斯樣な辯說の間にも窺はれるのである。革新トルコが一九二八年末にローマ字の使用を始め、我等よりも一歩先きに國字の改良を試みたる英斷は五十餘頁に亙る本書の附錄(三)新舊土耳其語對照を見ても分るのである。それに本書には附錄(一)日本語の書き方讀み方の手解き、附錄(二)トルコ語十二則が加へられ、兩國語の學習者に頗る便利な手引を與へてゐる。普通斯樣な編纂には先驅者たるべき土日或は日土の小辭典を見るべきであるのに、それなくして一擧にこの大業が完成せられたことは、當事者の苦心努力のほども察せられるのであつて、我等はその成功を祝するものである。之に倣つて漸次近來諸國語に對する邦文辭典が刊行せられ東方文運の隆昌に資する日あらんことを切に祈るものである。定價十圓。日土協會發行。（間崎万里）

史地社會論文摘要月刊（上海大夏大學史地社會學研究室出版）

本書は史學、地理學、及び社會學に關し、中國の機關雜誌に掲載された論文の內容を概括的に紹介する目的の下に、昭和九年十月、上海大夏大學史地社會研究室から印行された月刊雜誌である。從來國立編譯館から出版されてゐる圖書評論が、教育、社會、哲學、文藝に關する論文の分類摘要を行ひ、多大な便宜を與へたことがあるが、この雜誌は廢刊になつて少からず惜しまれたのである。然し大夏大學史地社會學研究室の少壯學徒が本書を刊行するに至つたことは寔に慶賀に堪へない。筆者は第二卷第四期（昭和十一年一月）以降本書を落掌してゐないが、恐らく續刊されてゐると思ふ。

本書は上海から刊行されてゐる關係上、上海、南京方面の雜誌が比較的多く收錄されてをり、從て本書には北平天津方面の雜誌が比較的等閑に附されてゐることと、全體を通じ重要論文の紹介が相當多く不足してゐるといふ憾みがある。然し容易に見ることの出來ぬ幾多の雜誌が收錄されてゐるから、東洋史學研究者が本書により多大な便宜を受けることは言ふまでもない。又雜誌の外に史地週刊(天津大公報副刊)、史學(天津益世報副刊)等の如き有力な新聞までが收錄されてゐることは、看過することが出來ぬ。尙淸華大學史學科の講師で明史研究の新進學徒吳晗や蕭一山、謝興堯等と共に太平天國の研究で知られてゐる羅爾綱、明淸史の研究に精進してをられる謝國楨諸氏の名が本書に散見してゐること